

飯島賢二の『恐縮ですが...一言コラム』

第 82 回 貧乏神の嫌いなタイプ~「縁」を呼び込む方法

(有)プライミング社長、室井氏の「縁」についてのお話を聞く機会があった。彼は千葉工業大学で「自己表現法」の講座を持つ、40歳台前半の、新進気鋭の若手コンサルタントである。今日は、彼の話を受けてしまう。詳しく聞きたい人は、彼に講演を依頼して、直接話を聞いて欲しい。

彼が言う「成功」とは、人により成功の認識が違うゆえ、幸せになること、つまり「成幸」と定義づける。「成幸」するには、チャンスをものにすることである。

チャンスをものにするには、いくつかの方法があるが、結果的にみれば「成幸」している人の全ては、「縁」を大事にしていることは、間違いない事実である。

「縁」を大事にする人は、必ず次の2つを身につけている。

その第1は、「**笑顔がいい**」ということ。物理的に言ってしまうえば「笑顔」は顔のその部分の筋肉（専門家でないので詳細は勘弁）で作られる。笑顔の苦手な仏頂面の人、実際にその部分の筋肉が退化してしまうそうである。「縁」を大事にする人は、惹きつけられるような魅力的な笑顔をしている。それは、そうしようを意識し、努力し、訓練しているからである。

笑ったり、笑顔でいつもいると、がん細胞を殺傷するといわれている「**ナチュラルキラー細胞**」が多量に発生することは、医学的にも実証されている。コメディや落語を見せている医療現場が実際に存在することも、事実である。

つまり「笑顔」は、周りの人に安心感と近親感を与え、「人」とのコミュニケーションのきっかけを作るばかりか、自らの健康維持にも大きな貢献を果たす、万能な手段である。

そして第2は「**相槌がうまい**」ということである。相手は自分の話を聞いてもらいたい...本当に聞いてくれているのか?...俺の事をもっと大事にしてくれ...という展開になってしまう。「あなたを大切に思っていますよ」という確認の合図が「相槌」である。更にその相槌と同時に、「合の手」「話にのる」事が、嫌味なくできる人は、ベターであろう。「そう、そう」「本当ですか」「それからどうなりました」等々である。

こんなシーンを思い浮かべてみれば、楽しい会話は、笑顔と共に止めどなく続いていく。渋っ面で、聞いているのか反応なしで、下を向いたまま一言も発しない、逆のシーンをイメージすれば、「縁」どころか「**貧乏神**」が寄ってきそうである。常に大きな声で、笑顔を絶やすことない人は、「**貧乏神**」が一番嫌いなタイプであること、覚えておくべきだ。

あなたは大丈夫？ お客様と、会議の席で、あるいは、愛する大切な人と...身に覚えある人は、今から変える努力をやるべきであろう。「縁」どころか、あなたの存在が、周り中を不愉快、不快にさせてしまっていること、いい加減に気付くべきである。